

2-7		主題	食事と口腔ケアによる『楽しみ』、『健康』を目指して	
口腔ケア		副題	～食育を通し食事と口腔ケアを考える～	
食育				
研究期間	8ヶ月	事業所	特別養護老人ホーム 羽村園	
発表者： 栗原 典子			アドバイザー： 歯科医・歯科衛生士	
共同研究者： 栗原典子 柴田順子 生信梓 関根伸一				
電 話	042-555-8611	メール	hamura@tokyo-busonkai.or.jp	
FAX	042-555-8571	URL	http://www.tokyo-busonkai.or.jp/hamuraen/	

今回発表の 事業所や サービスの 紹介	特別養護老人ホーム羽村園は、昨年9月の法人分轄により新たに『東京武尊会』としての運営を開始。介護老人福祉施設に加え短期入所、通所介護、居宅介護支援事業、地域包括支援事業を通し地域との交流を目指している。又、利用者様の食育を通し今年度の目標である『利用者満足度の向上』に取り組んでいる。
------------------------------	--

《研究前の状況と課題》 ・ 重度化が進み口腔状態の悪化に加え、食事摂取に課題のある利用者様の増加が見受けられた。 ・ 嚥下困難に伴う『むせ込み』、『誤嚥性肺炎』が多々見受けられた。 ・ 新旧の職員間での知識や技術力に差があり統一したケア方法の確立が必要であった。 ・ 今後の課題として“食育”に関する関心と重要性を高めると共に、職員の知識・技術の更なる習得と利用者様の口腔機能の維持・向上を図る必要があった。	《研究の目標と期待する成果》 ・ 利用者様の口腔機能の維持と向上を支援すると共に、誤嚥性肺炎等の食事や口腔に関するリスクを軽減しトラブル予防を目指す。 ・ 食事と口腔に関する知識についての重要性を再認識する中で、更なる知識の習得と技術の向上を目指す。 ・ ソフト食や補水ゼリーが利用者様に与える効果を期待して『美味しく、嚥下しやすい物』の提供を目指す。
--	---

《具体的な取り組みの内容》

- ・ 誤嚥性肺炎に至る経過を再確認し、発生リスクが高いと思われる利用者様の特徴を検証。嚥下状態の低下と口腔状態の悪化が主な原因であることに着目し対応の実施を図る。
- ・ 今まで嚥下状態の低下が見受けられる利用者様に対しては、トロミ剤で調整した水分を主体に提供していたが、新たに補水ゼリーを試みた。補水ゼリー作成に関しては管理栄養士と協力し凝固剤の検討、調整を実施し飲み込みやすいゼリーを作成。又、食事に関してもソフト食導入に向けての取り組みを実施、日常生活での食事から食べやすく誤嚥しづらい物を目指した。
- ・ 口腔ケア用品の見直しを実施。歯ブラシのサイズと毛の硬さが適切な物を選択している。口腔用のガーゼに関しても拭き取りに適した形状と肌触りの物を選択する。又、口腔ケア方法について歯科医、歯科衛生士、歯ブラシメーカーの指導とアドバイスをもとに見直しと周知を図った。
- ・ 日常生活内での実施できる取り組みとして食事前の口腔体操の実施に職員全体で取り組むと共に、体調管理や嚥下予防に効果の期待できる目標を毎月設定し利用者様・職員に対しポスター形式での周知に努めた。
- ・ 歯科医、歯科衛生士による検診内容の共有を図り利用者様の口腔状態・嚥下状態の把握に努めた。

《取り組みの結果と評価》

- ・ 利用者様の食育への取り組みを通じ職員の知識と技術力の向上が進んだ。結果、『食』『口腔ケア』に対する意識付けと統一が図れた。
- ・ ソフト食や補水ゼリー、口腔ケア用品に関して見直しを実施した事で好評の声が多く聞かれ、『口腔内の保清』及び『楽しみ』としての食事、補水提供の拡大に繋がった。
- ・ 食前の口腔体操については、職員や利用者様への呼びかけによって意識的な実施が進んだ。
- ・ 食事形態や口腔状態の改善により誤嚥性肺炎の発症減につながり結果的に、健康的で楽しい食生活につながった。

《提案と発信》

“食”は生活において子供から大人まで、もっとも重要であり楽しみの一つである。高齢者も例外ではないものの、心身の状態変化など様々な理由から残念ながら距離が遠のいてしまう方も多いのが現状である。高齢者に豊かで楽しい生活を提供する事が社会福祉施設の存在意義であることを思い日々、食育に取り組んでいくことが必要である。

【メモ欄】